

第4回 ショートレター入選作品

《最優秀賞》

タイトル 「娘へ」

けがれなき夢のまにまに生きる君にありがとう。ひかり園へ行くことをよろこびとする君にありがとう。成人式にむじゃきにでかけた君にありがとう。父さんは君の光にみちびかれ、夢にむかってがんばりたいと思います。

ジャンル ④⑭



《優秀賞》

タイトル 「ともだちへ」

アドベンチャーワールドへ行ったよ。バスからライオンを見たよ。なんだかわたしがおりの中にいて、ライオンから見られるようだった。あいての気持ちも考えられるとみんななかよくできるよね。

ジャンル ⑦

《優秀賞》

タイトル 「お母さんへ」

お母ちゃん、さいきんおこってばかりとちゃう。□うごかしすぎとちゃう。ときにはやさしくしてな。一日中、お母ちゃんの声ばかりでてるで。お母ちゃんの□、ちょっとだけでもいいから言うことへらしてな。

ジャンル ②

《佳作》

タイトル 「夫へ」

ねえあなた、人に接する態度が気懸かりなの。あなたは、「差別はしない区別しているだけ」と思っているらしいけど、人権に関しては差別も区別も一緒なの。みんなが相手の立場を思いやりあたたかい心で生きていこうよ。

ジャンル ③

《佳作》

タイトル 「娘よ」

「さみしい」とか「悲しい」とか思う気持ちも大事。その時、だれかが声をかけてくれて、心が「ほわあっ」と温かくなる感じ、あれを忘れないでね。転校して友だちできて、おかあさんもうれしいよ。

ジャンル ④

《佳作》

タイトル 「婆ちゃんの治療医」

名前も知らない、婆ちゃんの治療医へ。小学六年の時、婆ちゃんの人工呼吸器を取り外すか家族で呼ばれた時、私にも聞いてくれた先生。幼くても意見を言う権利はあると言ってくれたあの顔、今でもはっきり覚えています。

ジャンル ⑭

《 佳作 》

タイトル 「じいちゃんへ」

私が小さい時、ダンボールに入って「捨て犬」って書いてふざけて遊んでた。その時本気で怒ったじいちゃん。「誰も美穂を捨てるわけない。」初めて私に向かって怒った。だけどなぜかうれしかった。

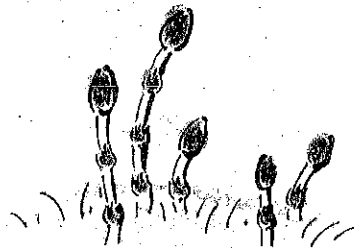
ジャンル ①

《 佳作 》

タイトル 「天国のばあちゃんへ」

わたしはほんま幸せちゃった。と言って死んだばあちゃん。ばあちゃん差別って何よ？部落から出にゃ差別なんて受けるわけないやろ。ばあちゃんが字読めんことが差別なんよ。うちの書いた手紙読んで欲しかったんよ。

ジャンル ①



《審査員特別賞》

タイトル 「娘に」

過食をしかってごめんね。貴女は食欲をコントロールしようとして一生懸命もがいている。私の一言でイライラしている母親の写し鏡のように貴女は沈んで行く。待ちます。一杯待ちます。貴女の笑顔を見せて下さい。

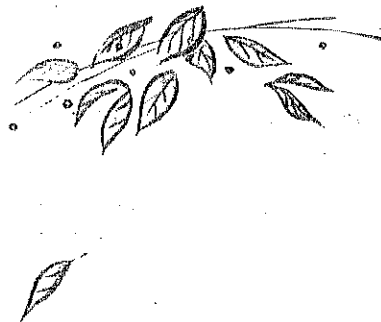
ジャンル ④

《審査員特別賞》

タイトル 「亡き父へ」

高校入学祝いに父さんに買ってもらった腕時計。級友のみんなに「安物」と笑われたけど、私にとっては大切なお気に入り。私の腕にはいつも父さんがいて、同じ時間を過ごせたから。働き者の父さんの汗の結晶だから。

ジャンル ②



《入賞》

タイトル 「娘へ」

いじめにあっても、耐えなさい。自分より弱い人に八つ当たりしてはいけないよ。いじめていないことを誇りに思いなさい。どうしても耐えられない時は、お父さんに手紙を出しなさい。では、また、元気で。

ジャンル ④

《入賞》

タイトル 「生きている皆へ」

人の笑顔。私は、人にはこれがないとあかんと思うねん。だから、どんなささいな事でも人の笑顔を消してしまうんはあかん事。どんな人でも、その人の笑顔を消す権利はないねんから。皆、もっと笑顔大切にしようや。

ジャンル ⑦

《入賞》

タイトル 「初めての町で会った おばあちゃんへ」

引っ越ししたばかりで、知る人も少ない町で、初めてお会いした、おばあちゃん。小さい息子を見かけて、声をかけてくれて、ありがとうございます。そのやさしさに、親子ともに、さみしい思いが吹きとんだよ。

ジャンル ⑯

《入賞》

タイトル 「小学一年生の娘へ」

「あの人、へんな歩き方じゃね」娘のこの一言に、厳しく注意した私。娘も自分の過ちに気づいたのか、神妙にコックリとうなづいた。勉強は人並みでいいから、他人の心の痛みの分かる人間に育ってほしい。そう願う。

ジャンル ④

《入賞》

タイトル 「亡き母へ」

たくさんの友だちを作れ。その母さんの言った意味、解ってきたよ。自分とは違う何かとの出会い。服装も考え方も、もちろん、能力も違う。その違いをお互いに認め合うことから、生きることなどを学んだ気がする。

ジャンル ②

《入賞》

タイトル 「ピアノ調律師の吉田のおじさんへ」

「年よりを粗末にするな行く道や。子供を邪魔にするな来た道や」調律師のおじさんのこの言葉、世界中に送信したいね。家庭が、社会が、愛に満ちあふれるね。世界の人々が愛の音色を奏でるよ。後生に残したい言葉やね。

ジャンル ⑱

《入賞》

タイトル「口うるさかった母ちゃんへ」

「残酷非道の行いはだめぞ。先祖様は、だれもが縄文人。」
そうだ。人を侮る。見下す。自分がされたいや。母ちゃん
の言う通りだ。

ジャンル ②

《入賞》

タイトル「24歳の息子」

『あいつであることに変わりはない』と、クラスメートが
カミングアウトした後も、それまで通りの付き合いを
続けた仲間達。変に構えてしまった大人達とは違った、
若い感性の世代が育っていることを嬉しく思ったよ。

ジャンル ④



《入賞》

タイトル 「お母さんへ」

私がつらい時言ってくれたあの言葉覚えてんで。「だれにも好かれることはできひん。だれにも好かれたかったら、家にずっといることしかないねんで。」その一言で立ち直れてんで。これからもその言葉忘れへんからな。

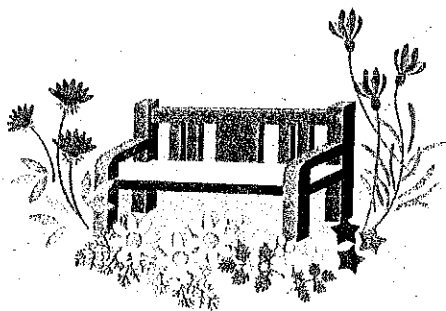
ジャンル ②

《入賞》

タイトル 「寝たぎりの夫へ」

「人間、ボケて寝てしもたら、しまいや」が、口ぐせだったあなたが、今、そのとおりになって寝ている。あなたは、もう、なんにも言わないけれど、わたしは、あなただけが、たよりです。がんばってね。

ジャンル ③



《入選》

タイトル 「母さんへ」

「私は太陽が好き。そして太陽は皆に平等。だから私は太陽に背くことはできない」、母に常々そう言われ僕は育った。ありがとう、母さん。大きな“平等”を教えてください。僕の邪心を溶かしてくれて。

ジャンル ②

《入選》

タイトル 「6年前の冬、足の不自由なお爺さんを助けたあの当時の高校生へ」

小雨が降っていたあの日、あなたは、重たい鞆を持って、お爺さんを背中に背負って、家まで送ってあげましたね。感激しました。あなたの勇気、そして優しさ。この世知辛い世の中に、あなたの様な人がいるなんて。

ジャンル ⑭

《入選》

タイトル 「教員の息子へ」

君が教師だからお願いするんだ。人には上下はないし、優劣もない。等しく尊いものだ。どうか、誰をも蔑まず、卑屈にもならない、そんな人づくりを目指してくれ。老いたとはいえ、私も自分なりに頑張る積もりだ。

ジャンル ④

《 入 選 》

タイトル 「叔母ちゃんへ」

9才で母を亡くした私に叔母ちゃんは厳しく恐かった。正直嫌いだった。高校に入学した頃叔母ちゃんは優しく言った。「もう私の出番ないわ」厳しさの中の優しさを知った。有難う叔母ちゃん。叔母ちゃんのお陰で私今幸せ。

ジャンル ⑱

《 入 選 》

タイトル 「車中のみなさまへ」

「電車の中は、携帯いっぱい使ってはるね」と、私は言う。「この中には、内部障害者の人がいるかも知れないのに」と、孫は言う。目に見えぬ障害者も、たくさんいることに気配りし、心広く社会に理解を求めたいです。

ジャンル ⑲

《 入 選 》

タイトル 「妹」

障害があるというだけで、友達と一緒にの学校に行く事を拒まれたよね。障害があるってだけで幸ちゃんもみんなと同じ人間なのにね。うちはどんな人でも幸せに生きれるような世界を作りたい。幸ちゃん、会いたいよ。

ジャンル ⑤

《 入 選 》

タイトル 「おかあさんへ」

おかあさん、いつもおいしいごはんを作ってくれてありがとうございます。すごくおいしいです。

いつもわたしの好きなごはんを作ってくれてありがとうございます。これからもおいしいごはんを作ってね。

ジャンル ②

《 入 選 》

タイトル 「子供達へ」

私達皆が楽しく生きていく為には、友達、年下の人、老人の方々それぞれに相手の希望、意見を良く聞いて、自分の考え意見を出して良く話し合う事です。その上でお互い納得し「お互いに認め合う事」が大切です。

ジャンル ④

《 入 選 》

タイトル 「父へ」

私もまもなく結婚。お父さんとは仲が悪く、喧嘩ばかりでした。でも私の選んだ人は、色んな部分でお父さんに似た人でした。彼の過去を知り、厳格な貴方は悩んだでしょう。認めてくれてありがとうございます。幸せになります。

ジャンル ②

《入選》

タイトル 「親孝行な先生へ」

「ボクの両親は、全盲で晩婚で、ボクが二十代で、亡くなったんだ。寝たきりでもいいから、生きててほしかった。」大事なことを気付かせてくれてありがとう。そうね、親も不死身ではない。大切にせねば。

ジャンル ⑱

《入選》

タイトル 「大好きなお母さんへ」

先日の法事の時にわかったことがあります。私達七人兄弟全員『自分こそがお母さんに一番愛されて育った』と信じてたことがです。お母さんは最高の教育者、誇りに思います。でも、やはり私が一番だった気がします。

ジャンル ②

《入選》

タイトル 「父へ」

自分を産んでくれた両親の顔も親の愛も知らず育ったお父さん。私達家族を心から愛し家族を守るために働きづめでしたね。孫に囲まれ健康でいる今が人生で一番幸せと言うお父さん長生きしてね。そして幸せを有難う。

ジャンル ②

《 入 選 》

タイトル 「お父さんへ」

小さくなっていく背中を見て、最近とてもせつなくなるよ。威厳があって、不器用だけど、愛情いっぱい育ててくれたお父さん。お父さんがつけてくれた名前の通り、私は幸せな子に育ったよ。本当にありがとう。

ジャンル ②

《 入 選 》

タイトル 「中二の孫へ」

咲く花鳴く鳥そよぐ風。野山に川辺に寄り添い生きるものたち。行き合う人の優しい微笑み、暖かい言葉。直ぐそばにあるそんな幸せを皆で確りと守るまちづくりの大切さが、日日、思えてならぬこの頃だよ。

ジャンル ⑥

《 入 選 》

タイトル 「デイ・ケア仲間のみねちゃんへ」

「知恵おくれ」ってイヤ。「バカ」はふつうの人でも言われるし、「障害」だと色んなタイプがあるけれど、「知恵おくれ」って人間より下みたいでキライです。「言葉にもっと敏感に！」と教えてくれてありがとう。

ジャンル ⑦

《 入 選 》

タイトル 「父上」

道端で見かけるティッシュ売りの少年。商売はそっちのけ。いつも一心不乱に書き取りの宿題中。正座したその後姿をいつも切なく横目に通り過ぎる時、何故か父さんが丁稚奉公していた頃の話思い出します。

ジャンル ②

《 入 選 》

タイトル 「お母さんへ」

お母さん、私は今日、退院しました。「あきはあきでいいがで。」入院中に送られてきた手紙に書かれていたその言葉を読んだとき、初めて自分を許せる気がしたんですよ。私、もう、生きることをあきらめたりせんき。

ジャンル ②

《 入 選 》

6 歳

タイトル 「おじいちゃんへ」

おじいちゃんを書いた五つの言葉のうちに、「あせるな」という言葉があるよね。日日、様々なことにあせている私達に、毎日をあせらずゆっくりと過しなさいと言っているんだね。これは社会が優しくなれる言葉だね。

ジャンル ①

《 入 選 》

タイトル 「6年前の私へ」

まだ死んじゃダメだよ。どんなにけなされても、しぶとく生きていれば、いつか受け止めてくれる人の存在に気付くよ。生きる権利があるって、幸せなことなんだ。その内、分かるよ。

ジャンル ⑩

《 入 選 》

タイトル 「祖母」

ねえ、ばあ。ママが最近ばあに似てきたよ。私もママに似てきたし、親子って面白いね。1歳になる娘も、私にそっくり。ばあが居たら、抱っこしてもらえたのって思うと悲しいよ。でも、ずっと見守っててね。

ジャンル ①

《 入 選 》

タイトル 「おじいちゃんへ」

天国で元気に、くらしていますか、ぼくは元気です。おじいちゃんが死んでしまっ以来、顔は見えていないけれど、おじいちゃんの事は一生わすれません。天国でぼくたちのことをずっと見守っていてね。

ジャンル ①

《 入 選 》

タイトル 「誕生日」

おばあちゃん、誕生日おめでとう、おばあちゃんの誕生日は僕と同じで、めでたい日だよ、だって、おばあちゃんが産まれていなければ、僕も産まれていなかったからね。

ジャンル ①

《 入 選 》

タイトル 「雲のうえのばっちゃんへ」

「着物や銭っこはぬすまいるけど、学はちがう。死ぬまでとれね。」ばっちゃんのおしえだったね。ごめん。学少ししかつけれなかった。でも、がんばる力はずいたさ。これもはなれん。一生はなさんよ。なあ！ばっちゃん？

ジャンル ①

《 入 選 》

タイトル 「天国の母へ」

「自分が、してもらいたい事を、相手にしてやりなさい」が口ぐせだったおかあさん。だから私はどんなに辛い時でも明るい笑顔で職場の戸を開けるよ。笑顔が返ってくる。本当にそうだね。

ジャンル ②

《 入 選 》

タイトル 「あなたに」

していい事と悪い事、言っいていい事、悪い事は教えられなくても分かるはず、自分がされたらイヤな事を他の人にしない事、気持ち良く生き合う為に、そうあっていればいい人と慕われる。

ジャンル ⑩

《 入 選 》

タイトル 「妻へ」

泣くのはひとりでもできる。だけど笑うのにはひとりではできない。そこには、男だから、女だからとの区別などないよ。同じ人間なんだから、少しでも悲しみも喜びも共有する夫婦でいたい。それも、同じ地平線を見て。

ジャンル ③

《 入 選 》

タイトル 「母親」

いつも家族のことばかり。自分の人生後回し。専業主婦にはなりたくないと思ってた。でも自立して、この広い宇宙で唯一確かな絆、家族、こんな大切なものを専業主婦は育ててたんだって知った。お母さん、ありがとう。

ジャンル ②

《 入 選 》

タイトル 「祖母へ」

共働きの両親の代わりに幼稚園の送り迎えをしてくれたおばあちゃん。片道10分がいつも楽しかったこと、十五年以上たった今、心の中の温かい光のようなかけがえのない思い出です。本当にどうもありがとう。

ジャンル ①

《 入 選 》

タイトル 「母さんへ」

実家の母を訪ねました。認知症になった母からの返事はありませんが、母を相手に話していると日頃の忙しさが嘘みたいに穏やかな気分になります。そんな時私は思うのです。一度だけでいいから私の名前を呼んで欲しいと。

ジャンル ②

《 入 選 》

タイトル 「(16歳年下の)妹 さわのへ」

お誕生日おめでとう。今年で5歳になりましたね。大きくなったあなたに「人権」という言葉を贈ります。あなたが生まれた時一緒にもらったぎむとけんりの事です。幸せに生きなさい。それがぎむで、けんりです。

ジャンル ⑤

《 入 選 》

タイトル 「これって偏見か差別か」

田舎町に住んで10年余、今だに町の夏祭りなどへの行事参加に呼ばれた事は一度もない。参加したいと申し出たら昔からの住んでいる人達の祭りなので、移り住んで来た人はダメだとの返事。これって偏見差別だと思うよ。

ジャンル ⑱

《 入 選 》

タイトル 「父さんへ」

差別ってどこから生まれるんだろうね、父さん。「みんな同じじゃなきゃいけない」って思う心からなのかな？ それっておかしいよね。み～んな違う顔して、み～んな違う夢持っているんだものね。

ジャンル ②

《 入 選 》

タイトル 「優しい姉へ」

おねえちゃん、私は理不尽な扱いに耐えて泣いていた若いおねえちゃんを覚えています。私は中学生でした。人のためには、もう十分尽くしました。今は自分の幸せを求めているんだよ。泣く時は感動と喜びの時だけ。

ジャンル ⑤

《 入 選 》

タイトル 「高知のおばあちゃんへ」

試験に失敗した私に、おばあちゃんは言ったね。「人間はね、生きてるだけで、えらい、えらいもんなんよ。あんたはちゃんと生きとるけん、えらいえらいもんなんよ」じわっときたよ。

ジャンル ①

《 入 選 》

タイトル 「ママへ」

ママ、いつもめんどろみてくれてありがとう。わたしは、幸せです。わたしは、ママの子に、生まれて、きてよかったと、思います。ママ、いつも、おいしいごはんを、ありがとうございます。大好きだよ、ママ。

ジャンル ②

